

Sunshine 第17回 Lessons

Lesson 17-1 : 様々なフレーズ②

1. the sun rises = 日が昇る the sun sets = 日が沈む

<例> The sun usually sets *around 5:00. <たいてい5時ごろに日が沈みます>

*around ~ = ~ ごろ / ~のあたりに / ~の周りに

〔補足説明〕

「太陽」は通常 the sun と the がつく（基本的に1つしかないと考えられているため。the moon (月) / the world (世界) となるのも同じ理由)。「rise = 昇る / (地平線上に) 出る」
「set = セットする / 日が沈む」という意味。日が沈むという場合、動詞は set (過去形 : set) だけでなく go down といった表現も使われる。また「日の出 (名詞)」のことを sunrise と言
い、「日没 (名詞)」のことを sunset という。「日の出に」「日の出まで」や「日没に」「日
没まで」というように、日の出・日没を「時刻」として扱う場合 at sunrise / until sunrise / at sunset
/ until sunset (until ~ = ~まで) というように無冠詞で使われる場合が多い。

<例> The sun went down around 5:00. (5時ごろに日が沈みました)
They played until sunset. (彼らは日没まで遊びました)

2. all day = 一日中

<例> We were there all day. <私たちは、そこに1日中いました>

〔補足説明〕

all day は、副詞句なので、基本的に前置詞はつかない。

3. ~ ago = ~の前に

<例> They left their office 10 minutes ago. <彼らは、彼らのオフィスを10分前に出ました>

〔補足説明〕

ago は、「期間 + ago」の形で使われる。また、ago と before の違いは「ago = 現在から～前に」「before = ある時点から～前に」となる。

<例> We finished this an hour ago. (私たちは、それを1時間前に終わらせました)
We finished this before the meeting. (私たちは、それを会議の前に終わらせました)

ステップ2：文の先頭に **Did** を足し、最後を？にする。

Did you had a test yesterday?

ステップ3：一般動詞を原形に戻す。

Did you have a test yesterday?

<例2：アサコは先週ここに来たのですか>

ステップ1：一般動詞の過去形の肯定文を作る。→ 「アサコは先週ここに来ました」

Asako came here last week.

ステップ2：文の先頭に **Did** を足し、最後を？にする。

Did Asako came here last week?

ステップ3：一般動詞を原形に戻す。

Did Asako come here last week?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の2種類。

Yes, 代名詞 did.

No, 代名詞 *didn't.

* didn't 使うのが一般的だが、did not と分けることも可。

Did ~? でなので、did で答える。
do / does で答えないように注意。

<例> Did you have a test?

Yes, I do. =×

<例1>

Did you have a test yesterday? (あなたは昨日テストがあったのですか)

はい → Yes, I did.

いいえ → No, I didn't. (No, I did not.)

<例2>

Did Asako come here last week? (アサコは先週ここに来たのですか)

はい → Yes, she did.

いいえ → No, she didn't. (No, she did not.)

そして、過去形の疑問文に Why / Where などの疑問詞を足す場合は、いつも通り、Did ~? の前に疑問詞を足してあげれば完成です！

【疑問詞を使った疑問文：基本の形】

疑問詞 + 疑問文？

<例> What did they eat? (彼らは何を食べたのですか)

Where did you go? — I went to Asakusa.

(あなたはどこに行ったのですか — 私は浅草に行きました)

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

ステップ 1: 疑問詞の部分（何・どこ）に同じ種類の「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を **疑問詞に戻す**。

ステップ 3: 疑問詞を**文の先頭に持ってくる**。

<例：彼らは何を食べたのですか>

ステップ 1: 疑問詞の部分（何）に同じ種類の「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

「何」の部分「寿司」に変える → 「彼らは寿司を食べたのですか」

_____ Did they eat sushi? _____

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を疑問詞（what）に戻す。

sushi → what に戻す。

_____ Did they eat what? _____

ステップ 3: 疑問詞を文の先頭に持ってくる。

_____ What did they eat? _____

Lesson 17-3：様々なフレーズ②

1. only = 唯一の / ~だけ / たった ~ しか

<例> I have only two pencils. <私は、たった2本の鉛筆しかありません>

〔補足説明〕

only は「形容詞」「副詞」として主に使われる。only が一般動詞の文に足される場合、only は「修飾する単語や句の前（例：I have only two pencils.）」だけでなく「一般動詞の前（例：I only have two pencils.）」に足すこともできる（I have only two pencils. の方が「2本しかない」ということを強調しているニュアンスがある）。

また only と似た意味でという意味で、just が使われることもよくある。

<例> 私には1人しか姉（妹）はいません。

I have only one sister.

I have just one sister.

2. 〇〇 times = 〇〇回

<例> She read it three times. <彼女は、それを3回読みました>

[補足説明]

基本的に1回という場合は once が使われ、2回という場合は twice が使われる。それ以降は、〇〇 times となる。また、once / twice / 〇〇 times は、〇〇 times は、基本的に副詞句となるので、前置詞はつかないが、only といった副詞を足すことはできる。

<例> She read it once. (彼女は、1回読みました)

She read it only twice. (彼女は、たったの2回しか読みませんでした)

3. on the road = 道路に / 道路で

<例> I saw a deer on the road. <私は鹿を道路で見ました>

[補足説明]

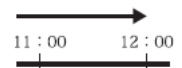
road は「道」「道路」という意味。「street=街中で両側に建物が立ち並んでいる道路」なのに対し「road=都市と都市を結ぶ(一般的に車の通行のための)道路」。street 同様「道の上にいる」というイメージなので、前置詞は on が使われる。また、the の代わりに this / that を使い on this road / on that road などもよく使われる。

<例> His house is on this road. <彼の家は、この道路にあります>

また、street 同様、in the road という表現も使われることがあるが、こちらも「道路の真ん中」を指すことが多いので注意。

4. until ~ = (動作・状態が続いているのを表して) ~まで / ~になるまで

<例> They worked until 10:00. <彼らは 10時まで働きました>



[補足説明]

until は、前置詞。「行っている動作・状態が継続しているイメージ」。by も「~まで(に)」と訳されるが、by は、期限を表す「~まで(に)」という意味になる。

<例> I want to finish it by 10:00. (私は、それを 10時までに終わらせたいです)

They worked until 10:00. (彼らは、10時まで働きました)

until と、ほとんど同じ意味で till という単語があるが、until の方が till よりもフォーマルな言い方。また、アメリカでは till よりも until が使われる傾向がある。

<例> They worked till 10:00. (彼らは 10時まで働きました)

She didn't come home till ten. (彼女は 11時まで帰宅しませんでした)

until は接続詞としても使えるため、“until + 語句”でなく“until + 文”という形も可。

<例> We need to wait until he comes. (私たちは彼が来るまで待つ必要があります)